

9

昭和52年9月1日

第124号

編集と発行
鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号 〒892

市役所のでんわ ② 1111

かごしま 市民のひろば

市の人口(推計)

(52.8.1)	(前年同月比)
人口総数 476,116人	(+ 9,810人)
男 225,318人	(+ 5,050人)
女 250,798人	(+ 4,760人)
世帯数 156,861世帯	(+ 3,521世帯)



生きがいのある老後を

九月十五日は「敬老の日」です。この日から一週間、老人福祉週間がはじまります。厚生省の資料によると平均寿命がさらに延びて、日本は世界有数の長寿国になりました。

老人福祉週間がはじまります。厚生省の資料によると平均寿命がさらに延びて、日本は世界有数の長寿国になりました。男七十二・一五歳、女七十七・三五歳は老人パワーの盛んさをあらわすうれしい数字といえましょう。しかし、どんどんふえる老齢人口なのに、老人福祉制度は、ほかの福祉行政とともに、欧米にくらべると一步も二歩もまだ遅れているようです。市では、おとしよりに、元気で長生きしていただくための「老人健康診査」や敬老特別乗車券の発行など老人福祉の向上に取り組んでいます。

老人健康診査

五歳以上の人

回受診の方法 六十五歳から

長生きするためにはまず健康が第一です。市では、おと

六十九歳までの方は老人健

康診査記録票(民生委員宅にあ

ります)と健康保険証

けられるように、医師会の協

力をえて健康診査を実施して

います。自分でどこも悪い

ところがないと思っていても

是非この機会に受けてみま

す。身よりのない病気のおとし

よりも、身のまわりの世話を

したり、相談にのつてあげた

りするのが「家庭奉仕員派遣」

家庭奉仕員制度

市電、市バスの未運行地域
のおとしよりに対しても民間
バスなどの回数券を交付して
あります。くわしくは、市老人
福祉課へ。

市内に居住して、住民登録
のある七十歳以上のおとしよ
りに、市営の電車、バスの無
料乗車券を差し上げています。
またこの敬老乗車券で平川
動物公園、美術館、市営鴨池
球場で行われる県高校野球連
盟主催の高校野球などが無料
で観覧できます。

特別回数券の交付

の制度です。

身体や精神上の障害があつ
て、毎日の暮らしの上で困
つておられる六十五歳以上のお
としよりのお宅を訪れて、
世話をします。

整理整頓と生活や身の上に
ついての相談、助言などのお
仕員が寝たきりのおとしより
市内の男女の最高齢者

の制度です。

映画の優待割引

県興業組合鹿児島支部では
七十歳以上の方に、市内の各
映画を九月中子供料金に割引
します。映画館によつては無
料のところもあります。敬老
バサなど証明できるものを持
参してください。

坂上力メツルさん(百一歳)
今森蔵右門さん(九十八歳)
持木町
川上町

の身のまわりの世話など心を
こめてつくしています。

おとしよりで「家庭奉仕員」
の派遣を希望される場合は、
お近くの民生委員宅へ申し込
んでください。

敬老の日行事

敬老金と記念品贈呈

九月十三日、十四日の二日
間、山之口市長をはじめ、市
の幹部が八十八歳以上(約八
百人)のおとしよりの家を訪
問し、敬老金と記念品を贈り
長寿を祝福します。

皆志町の自宅で毎日も元気
に暮らす孫(3歳)と一緒に
わざわざ土をやる西園ハツ
カメさん(90歳)

お盆と甲子園

山口安秀



国道225号線谷山駅前

お盆は、齊明天皇の三年に、飛鳥寺で盂蘭盆会が
行われ、祖先の靈を祀つたとされているそうですが
、千三百年以上も続いている行事です。終戦以後
伝統行事の中にはその姿が消え、あるいは色あせて
いくものもある中で、お盆だけは生々と残つていて
います。お盆帰りは里帰りであつて、祖先の墓前にぬかづ
くとともに、ともすればおもかげが薄れようとする
ふるさとの自然や人を、心中にあたため、現像し
なおし、ふるさとの安らいだ心をもつて、また帰
れるのが毎年の例です。

お盆帰りは里帰りであつて、祖先の墓前にぬかづ
くとともに、ともすればおもかげが薄れようとする
ふるさとの自然や人を、心中にあたため、現像し
なおし、ふるさとの安らいだ心をもつて、また帰
れるのが毎年の例です。

炎暑の八月も終りましたが、八月の大きな行事と
いえば、お盆と甲子園の全国高校野球大会があげら
れます。一見、何のかかわりもないような新旧二つ
のこの行事が、実は、今日の日本人のふるさと意識
を支えているのだという見方がありますが私もその
ように思います。

夏と春の甲子園大会の起こりは、いずれも大正年
間ですから、お盆とは比較にならない新しい行事です。
しかしながら選手の活躍は、テレビ、ラジオ、新聞
等を通じて全国に報道され、炎天下のグラウンド
に生まれる数々のドラマ、青春が描き出すさわやか
な感動は、甲子園の観衆はもとより、全国民にしば
し暑さを忘れさせ、われを忘れて声援させます。

郷土の栄光をになつて、全力をあげてプレーする
選手の姿は、郷里をはなれて頑張つておられる方々
に、遠のいていたふるさとを思い起させ、甲子園
とテレビ、ラジオ、新聞の視聴者と、故郷とが一体
となつて郷土愛を盛りあげています。その意味で、
お盆と甲子園の野球大会。新旧のコンビが八月に
手を組んで、日本人をふるさとに結びつけ、健全な
社会づくりに大きな役割りを果しているようです。

